

# 1-2:研究広報

開催日時・会場 9月17日(木曜日) 13:30 - 15:00 会場A

## 大学等におけるブランド価値とその向上策について

研究広報は、その機関で行われた研究成果を一般にわかりやすく伝える手段の1つである。日本の大学は国内では一定の知名度があるものの、大学ランキング等において海外における認知度向上や国際共同研究の促進を課題とする大学が多い。そこで最近では、研究広報を大学のブランディングの一環として捉える動きがある。また科研費では、研究成果広報活動などのアウトリーチ活動が求められており、研究者自身も積極的に行っている。研究者自身も分野が異なる原著論文を読むのではなく、研究広報を閲覧するケースも増えている。このセッションでは、日本の国立大学、私立大学、並びに海外の大学の事例を紹介しながら、大学のブランド価値の向上に向けた研究広報における課題を可視化する。そして、研究広報の価値は何なのかを改めて議論し、SNSやメディアを利用した効果的な広報戦略について考えていく。具体的には、以下の4つの講演を行う。(1)東京農工大学で行われている研究広報の事例。(2)研究広報による関西大学のブランド作りの取り組み事例。(3)海外の事例から学ぶ研究広報によってもたらされる価値とその評価。(4)ターゲット設定による効果的なSNSの利用やメディア戦略。

## セッション担当者

二歩 裕：東京農工大学  
先端産学連携研究推進センター  
特任講師 リサーチアドミニストレーター



2018年より東京農工大学にて特任講師、リサーチアドミニストレーターとして、英語の研究広報、プレ・ポストアワード、知財、産学連携と広く関わる。1995年筑波大学にて博士(農学)を取得。助手として同大学に勤務後、18年間渡米。カリフォルニア大学で博士研究員、その後コーネル大学医科大学(Weill Cornell Medicine)にて、PIとしてゲノム生物学の基礎研究に従事。2015年に帰国し、筑波大学にてリサーチアドミニストレーター。基礎研究の経験を活かして研究マネジメントに従事。

## 登壇者

齋藤 憲一郎:東京農工大学

先端産学連携研究推進センター

特任講師 リサーチ・アドミニストレーター



2012年より東京農工大学でリサーチ・アドミニストレーター、2016年より現職。URA業務では研究広報をはじめ、IR、プレ/ポストアワード、知財、産学連携などに従事。東京農工大学で博士(農学)取得。専門分野は植物保護、特に植物病理学。富山県農業試験場、東京農工大学、農業生物資源研究所でポスドク研究員を経験。

舘 正一:関西大学 大学本部URA

上級リサーチ・コーディネーター

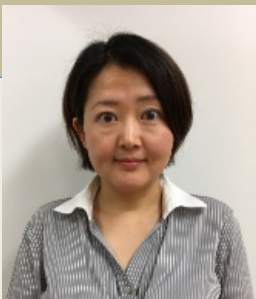


学生時代にデザイン会社を起業。その後、大手広告代理店にて広報・広告の企画に従事。2016年より関西大学学長室リサーチ・コーディネーター(イベント・コーディネーター/サイエンス・コミュニケーター)着任。文科省私立大学ブランディング事業においてブランディングの戦略立案、ディレクションに携わる。研究広報という視点で大学広報、研究戦略の業務全般に従事。

森田 桂花:カクタス・コミュニケーションズ(株)

インパクトサイエンス事業部

マネージャー、ビジネスデベロップメント



開発援助業界(国連世界食糧計画他)で勤務していたが、スリランカで熱帯性感染症に感染し、危篤となり帰国。大学に転職し学術支援専門職員・常勤講師などを経験した後、カクタス・コミュニケーションズ株式会社に入社。大学・研究所の国際研究広報を代行するImpact Science(インパクトサイエンス)を担当する。

大場 郁子:シュプリング・ネイチャー

ネイチャー・リサーチ

コマーシャル・ディレクター



2014年よりシュプリング・ネイチャーの広報・マーケティングを担当。現在は、大学、研究機関、政府機関に向けた科学コミュニケーションやトレーニングサービスを提供するアジア太平洋チームを統括。また、日経サイエンス取締役、ケイロン・イニシアティブ理事を兼任。